

資料2

令和5年(2023年)2月15日
高齢者計画・介護保険事業
計画策定部会
高齢者いきいき課

第9期計画の方向性について

1

計画の位置付けなど

計画期間と法的な位置づけ

【計画期間】

◎3年間(令和6～8年度(2024～2026年度))

【根拠法】

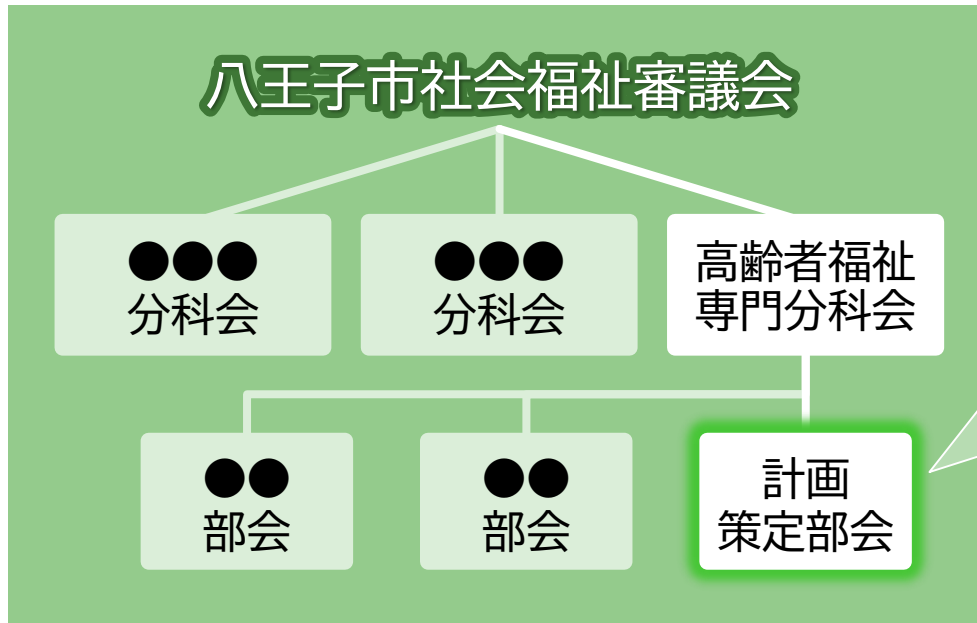
◎**高齢者計画**:老人福祉法第20条の8

◎**介護保険事業計画**:介護保険法第117条

※ 介護保険事業計画は3年を1期とする(介護保険法第117条第1項)

※ 両計画は一体のものとして作成されなければならない(同第6項)

計画策定体制



◎設置期間

令和5年2月～令和6年3月
(全7回予定)

◎部会構成（名簿参照）

様々な立場から17名で検討。

※ 世代を超えた議論に向け、
公募市民に39歳以下枠を追加

その他 これまで行ってきた調査・検討

- 昨年10月から、様々な対象に目的ごとにアンケートを実施。
65歳以上の方、在宅で要介護等の認定を受けている方、介護事業所など
- 介護・医療データの分析から将来の予測や地域ごとの比較、介護予防事業の効果検証を随時実施。
- 高齢者あんしん相談センターや関連する所管へのヒアリング

計画策定スケジュール

R4年度

R5年度

65歳以上の方へのアンケートで生活上の困りごとや要介護リスクの状況などを調査

在宅で介護を受ける方へのアンケートで住み慣れた場所で望む暮らしを続けるために本人・家族が求めることなどを調査

介護事業所へのアンケートで、介護人材の現状や事業所の抱える課題などを調査

(R5年3月)ケアマネジャー向けのアンケートで、ケアマネジャーの意識や住み慣れた場所で望む暮らしを続けるための課題などを調査

各種調査結果やデータの分析

高齢者あんしん相談センターへのアンケート

認知症本人への調査

市民意識調査

基礎調査

検討プロセス

素案検討

R5年12月
パブコメ

最終案
策定

R5年2月～R6年3月
計画策定部会を随時開催

令和6年3月 計画公表

参考:これまでの計画

八王子市高齢者計画・第7期介護保険事業計画

(平成30～令和2年度(2018～2020年度))

【基本理念】健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち(八王子ビジョン2022の都市像と一致)

計画の柱① 地域で生きがいを持ち、生き生きと暮らす

計画の柱② 住み慣れた地域で安心して暮らし続ける

計画の柱③ 利用者の自立を支える介護保険サービスの安定した提供

八王子市高齢者計画・第8期介護保険事業計画

(令和3～5年度(2021～2023年度))

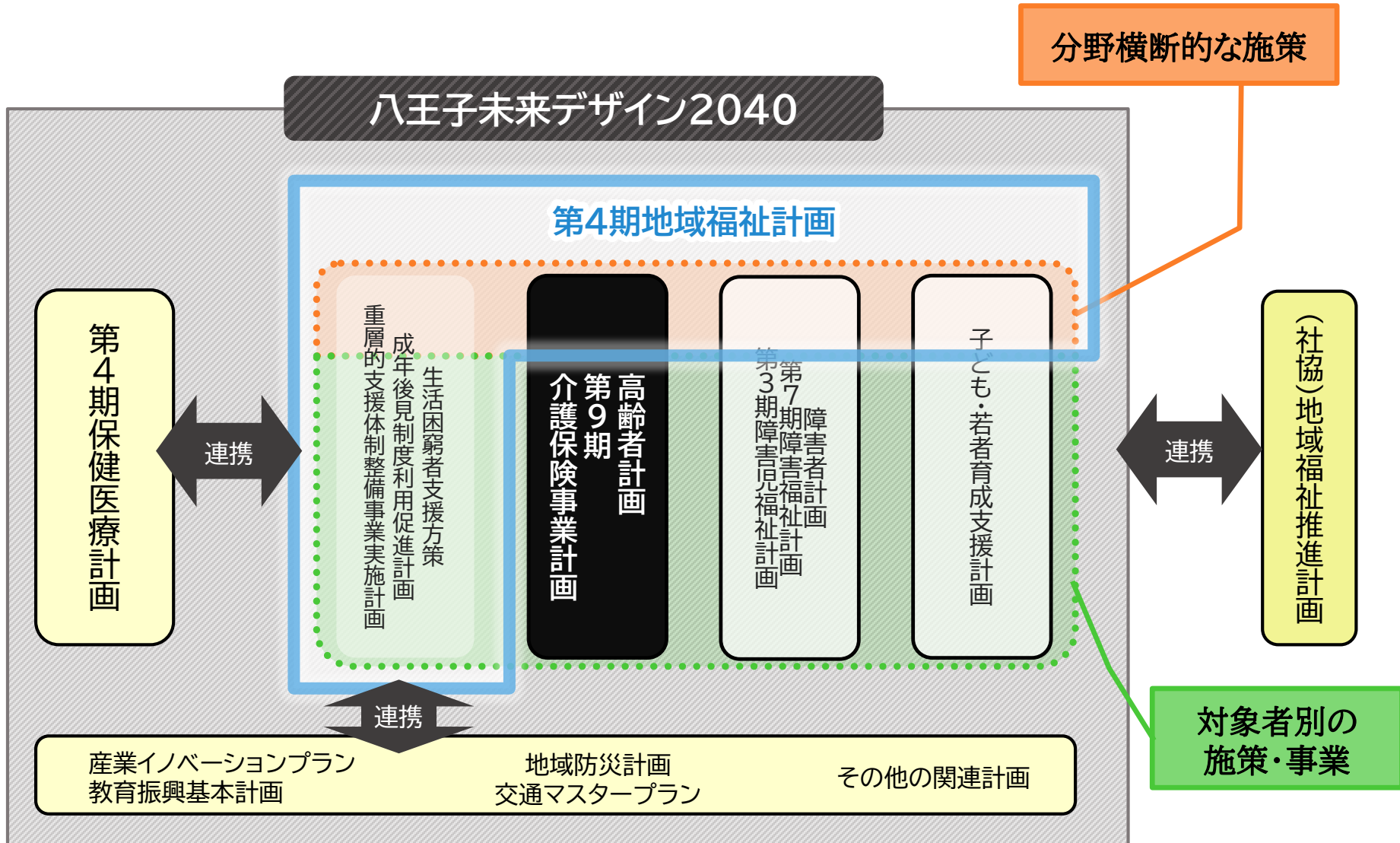
【基本理念】いつまでも「望む生活」を送ることができる生涯現役のまち八王子

基本方針① 多様な地域資源と専門職等のケアを連動させた地域包括ケアシステムの構築

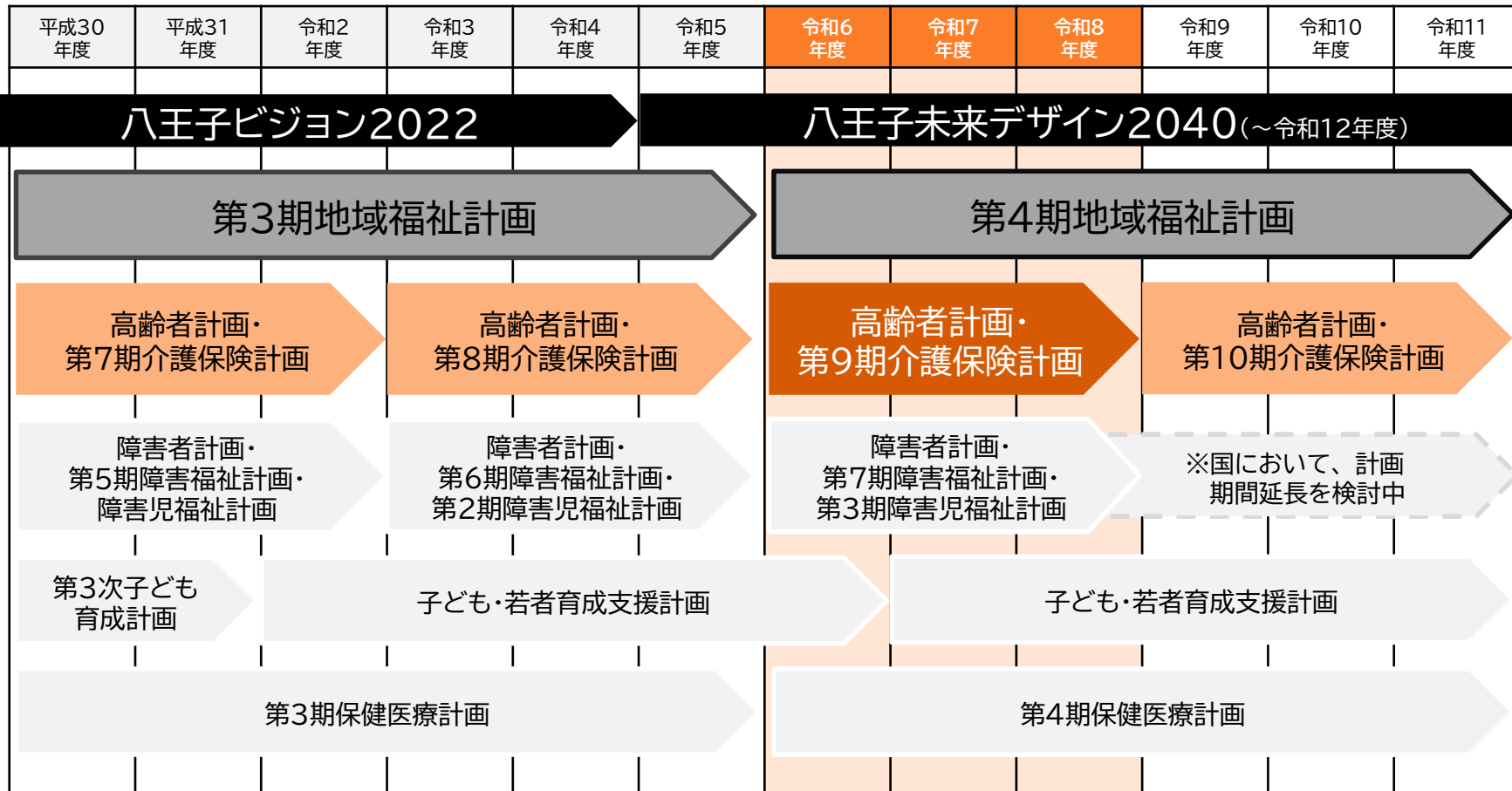
基本方針② 健康寿命延伸に向けた自立・セルフケア意識の醸成

基本方針③ 暮らし方を選択できる地域づくりに向けた基盤整備

他の計画との関連性



関連計画の計画期間



2

制度をめぐる動向と
8期計画の課題

社会保障審議会 介護保険部会(厚生労働省)

- ・ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を迎え、さらなるサービス需要の増加と生産年齢人口の急減が予測される。
- ・ この中で、地域共生社会づくりの観点とともに
必要な人に、必要なケアを、将来にわたって提供し続けられる仕組みづくりに向けて検討・提言が行われた。

部会 意見

(1)地域包括ケアシステムの更なる深化・推進

- ・ 生活を支える介護サービス等の基盤の整備
- ・ 様々な生活上の困難を支え合う地域共生社会の実現
- ・ 保険者機能の強化

(2)介護現場の生産性向上の推進、制度の持続可能性の確保

- ・ 介護人材の確保、介護現場の生産性向上の推進
- ・ 給付と負担

高齢者福祉専門分科会(八王子市)

本市においては、八王子市社会福祉審議会の高齢者福祉専門分科会にて第8期計画で設定した指標の現状や自治体間のデータ比較ツールを活用した地域分析結果、インセンティブ交付金の評価について随時報告を行っている。

分科会での報告内容・委員からの意見等(一部抜粋)

(1) リエイブルメント(再自立)を目指すサービスについて

- 圏域ごとに活用状況に差がある。好事例や積極的な取組の横展開が必要。
- サービス終了後に、地域で人とかかわりながら役割・生きがいを持てるような場が必要。

(2) 将来の介護人材不足・財政負担について

- 今のままでは必要なときにサービスが受けられなくなる恐れがある。
- これまで以上に予防・重度化防止と人材獲得に力を入れる必要がある。

(3) データから見る本市の特徴

- 認定率やサービス利用率などを他自治体と比較した際の本市の特徴について考えられる原因をデータから検証し、施策につなげる必要がある。

8期計画の指標達成状況（R3年度時点）

コロナ禍による事業縮小のほか、主に以下の取組において指標未達成となっている。

- (1) 地域の支えあいの促進
- (2) 就労・ボランティアのマッチング手法の検討
- (3) 再自立に向けたサービスの活用率
- (4) 重度化防止に取り組む事業所の割合
- (5) エビデンスに基づく成果連動型介護予防業務委託の導入

計画の柱・方向性	令和3年度評価			
	◎	○	△	×
1. 地域ネットワークの充実	12	10	2	0
2. 自立支援・重度化防止	2	10	9	0
3. 認知症との共生と予防	5	3	1	0
4. 在宅生活の支援	8	9	3	1
5. 介護保険制度の持続可能性確保	8	9	4	0
合計	35	41	19	1

サービス付き高齢者向け住宅の質を確保するための指導監督について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため未実施となっている

評価基準 ◎:達成できた ○:おおむね達成できた △:達成はやや不十分 ×:達成できなかった

第8期計画における課題

特に以下2つの課題について、より実効性ある取組が必要

課題1:介護予防・重度化防止

- ・ 高齢者あんしん相談センターをはじめとした関係者とのビジョン共有・連携の強化
- ・ 窓口機能の強化と専門職と連携したアセスメントの推進
- ・ 地域と連携した、継続的な予防につながるサービス終了後の社会参加支援

課題2:制度の持続可能性確保に向けて

- ・ 介護人材の需給ギャップ及び保険者としての財政負担増は深刻であり、
 需要アプローチ(介護予防・重度化防止に加え、地域の支えあい、認定・給付適正化など)
 供給アプローチ(人材確保、生産性向上など)
 の両面から具体的な取組と目標を設定する必要がある。
- ・ 介護給付費等の予測や基金残高、国の方針も踏まえて保険料基準額や負担区分を適切に設定

※ その他部会意見に関連する内容についても引き続き計画に掲載し、地域共生社会づくりやサービス整備を進めていく。

3

計画づくりの考え方

大事にしたい3つの視点

◎ビジョンに基づくゴール共有

- ・「このままだとどうなるか」「どんな未来をつくりたいか」を示す。
- ・市民や様々な専門職が、ともにめざす未来を目指す想いを共有。

◎ロジックに基づくルート設定

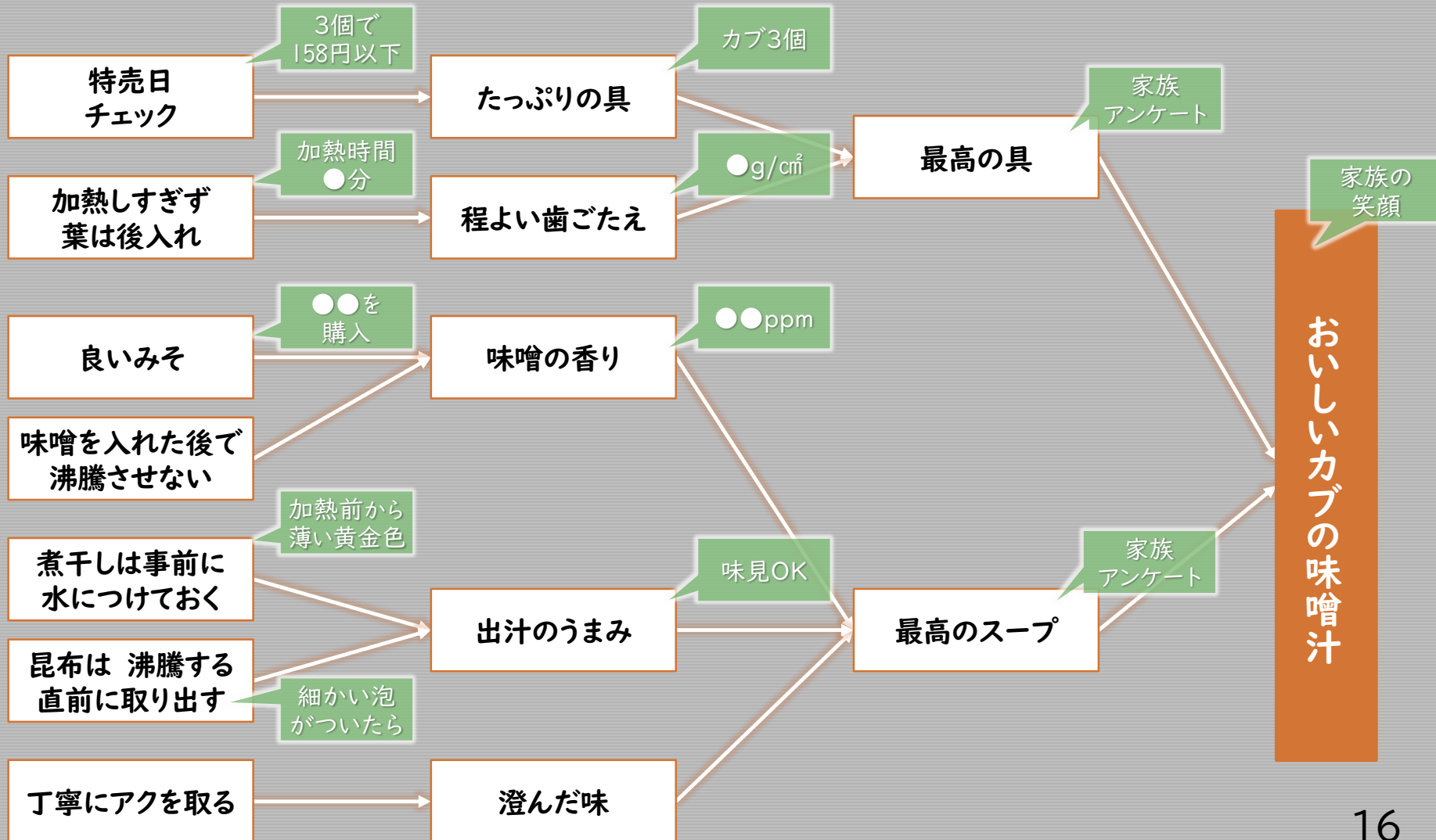
- ・「どうやってビジョンを実現するか」「うまくいっているかをどう測るか」をみんながイメージできるように「ロジックモデル」を描く。

◎エビデンスに基づく進捗管理

- ・「予定通りやる」ことが目的ではないので、「狙った効果が出ているか」をデータを見ながら確認。
例：計画どおりイベントを開催したけど、本当に高齢者の社会参加率が上がったかな？
- ・想定外の社会変化や想定していたロジックの誤りが判明すれば3年の計画期間内であっても迅速かつ柔軟に対応。

ロジックモデルで、頭の中を見える化すると…

- 何を、何のために、どれだけやるかが明確になる
- 計画のどこが間違ってたのか特定できる



皆さんにお願いしたいこと

◎楽しく

「正しいことを言わなきゃ」と身構えず、
「自分はこう感じる」「身近でこんなことがあった」という
皆さまご自身の声を聞かせてください。

◎熱く

無理に空気を読まず、人と違う意見こそ積極的にご発言を！
いろんな立場からの想いをぶつけ合うことが目的です。

◎未来志向で

今の高齢者だけでなく、現役世代や未来の市民まで含めた
「みんな」の幸せを目指しましょう。

語り合いましょう！